

伝えたい「戦中・戦後」の暮らし

昭和館では、常設展示室において「戦中・戦後の国民生活上の労苦」に係る歴史的資料を展示しております。

また、このような実物資料を活用した展覧会を各地でも開催してほしいという要望があり、平成13年から各地で実施してきたところ、このたび関係機関、各位のご協力をいただき、巡回特別企画展「伝えたい『戦中・戦後』の暮らし」を、佐賀市において開催する運びとなりました。

本展では、実物資料を中心に、厳しい時代を生き抜いた人々が綴った手記や、その姿を記録した写真を通じ、母や子、そしてその時代に生きた人々の様々な思いや、苦難の多かった暮らしを紹介します。



出征・東京
昭和19年(1944)2月
瀬下恵美提供

記

【会期】	平成26年10月1日(水)～10月19日(日)
【時間】	9時30分～18時00分 最終日は9時30分～14時00分 ※初日は、9時30分からオープニングセレモニーを行います。
【イベント】	10月12日(日)・13日(月・祝) 14:00～ 紙芝居実演・戦時中の少年少女雑誌の工作体験など
【会場】	佐賀県立博物館 3号展示室 (佐賀市城内 1-15-23)
【入場料】	無料
【主催】	昭和館
【特別協力】	佐賀県立博物館・佐賀県立美術館
【協賛】	日本遺族会第5ブロック(佐賀県遺族会 福岡県遺族連合会 大分県遺族会連合会 長崎県連合遺族会 熊本県遺族連合会 宮崎県遺族連合会 鹿児島県遺族連合会 沖縄県遺族連合会)
【後援】	佐賀県 佐賀県教育委員会 佐賀市 佐賀市教育委員会 佐賀新聞社 NHK 佐賀放送局 STS サガテレビ ぶんぶんテレビ NBC ラジオ佐賀 エフエム佐賀
【所在地】	〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-6-1
【問い合わせ】	TEL 03-3222-2577 FAX 03-3222-2575 学芸部 吉葉・坂尻
【ホームページ】	http://www.showakan.go.jp
【同時開催】	「平和祈念展 in 佐賀」 主催: 平和祈念展示資料館(総務省委託) 会場: 佐賀県立博物館 2号展示室 平和祈念展示資料館が所蔵する、さきの大戦における、兵士、戦後強制抑留者、海外からの引揚者の労苦に係わる実物資料などを展示しています。

展示構成

本展では全体を4つのコーナーに分けて紹介します。

「Ⅰ 家族の別れ」では、出征する人たちや戦地の家族の無事を祈る人々の様子を紹介します。

「Ⅱ 戦中の暮らし」では、昭和 12 年(1937)に日中戦争が始まり、人々の生活に現れた戦争の影響や、徐々に空襲が激しくなる様子を紹介します。

「Ⅲ 戦争が終わって」では、終戦を迎え、焼け野原から復興に向けて再出発した人々の様子を紹介しま

す。
「Ⅳ 慰霊の旅」では、混乱した戦後の労苦を乗り越えた戦没者遺族たちの、戦没者への断ちがたい思いから行われるようになった戦没者慰霊事業の様子を紹介します。

コーナー解説

Ⅰ 家族の別れ

成人男子には兵役が課せられており、社会制度の一端を担っていた。戦争が始まると臨時に招集される人も急増し、出征する家族の無事を願って「千人針」を縫ってもらう光景が多く見られるようになった。

Ⅱ 戦中の暮らし

昭和 12 年(1937)に日中戦争が始まると、長期戦を支えるために戦争に協力する体制が整えられ、やがては食料品や生活必需品の配給制度の導入や、金属回収が実施されるようになった。

子どもたちも影響を受け、昭和 16 年(1941)に尋常小学校は国民学校と改称された。昭和 18 年からは不足する労働力を補うため、中学生以上の生徒に対する勤労働員も本格化する。また昭和 19 年には、空襲の危険を避けるために学童疎開も実施された。そして、同年末から本格化した空襲によって、多くの都市が被害を受けた。

1. さまざまな統制
2. 戦中の子どもたち
3. 空襲、そして終戦



「パーマメントお断り」の立て看板
昭和 14 年(1939)6 月
朝日新聞社提供



鳥栖工業学校の整地奉仕をする田代尋常小学校(現・鳥栖市立田代小学校)の児童
昭和 14 年(1939)
鳥栖市教育委員会提供
『栖 No.15』(鳥栖郷土研究会)より



防空服装

Ⅲ 戦争が終わって

昭和20年(1945)8月15日正午、「玉音放送」により戦争の終結が国民に知らされた。配給は滞り、食料などは非合法の闇市や買い出しによって手に入れざるを得なかった。戦争が終わると戦没者遺族に対する想いは一変し、翌年2月には恩給が停止されるなど、遺族を取り巻く環境も厳しいものとなっていった。

町には肉親を失った戦災孤児たちの姿が見られ、墨塗り教科書を使った授業が行われるなど、子どもたちの世界も混乱していた。やがて世の中は落ち着きを取り戻し、復興は進んでいった。

1. 廃墟からの出発
2. 遺された家族
3. 戦後の子どもたち
4. 復興に向けて

		
<p>佐賀県庁前の国道に建てられた供米感謝の塔 市町村ごとに供米の量が記されている。 昭和23年(1948) 郷土出版社提供</p>	<p>墨塗り教科書</p>	<p>紙芝居に見入る大町町炭鉱住宅街の 子どもたち・杵島郡大町町 昭和31年(1956)6月 佐賀新聞社提供</p>

Ⅳ 慰霊の旅

戦没者の遺族たちが、混乱した戦後の労苦を乗り越え、平和への願いを込めて臨んだ戦没者慰霊事業の様子を紹介する。

1. 遺骨収容
2. 慰霊巡拝



会場内には展示の他にも以下の各種コーナーを設置しています。

・『戦史叢書』^{せんしそうしょ}『陸軍・海軍部隊略歴』 検索・閲覧コーナー

昭和館 5 階の映像・音響室、4 階の図書室では『戦史叢書』と『部隊略歴』を電子化し、検索端末にて情報の提供を行っております。巡回特別企画展において端末を設置し、本館と同様の検索・閲覧を行うことが可能です。なお、『戦史叢書』は各地の図書館に所蔵されていますが、パソコンを使って「ことば」で検索できるシステムは当館独自のものです。

※ 戦史叢書とは、防衛研究所戦史室が編纂し、朝雲新聞社より昭和41年(1966)から51年にかけて出版された公刊戦史(全102巻)です。

※ 陸軍・海軍部隊略歴は、主に陸・海軍の部隊の編入から武装解除(復員)等までの部隊の行動を記したものです。

・「和男君の防空探検」

昭和17年(1942)に刊行された『防空絵とき』を題材として、パソコンを使って、防空の道具や工夫についてゲーム感覚で紹介します。

・「着てみよう」

国民服や防空頭巾など、戦中・戦後の衣服を着たり帽子をかぶることができます。



・「映像コーナー」

戦中・戦後の生活を経験した方々の証言をまとめた「昭和館オーラルヒストリー」の他、昭和館が所蔵するニュース映画のなかから、佐賀県に関する番組をご覧いただくことができます。

イベント

日時：平成26年10月12日(日)、13日(月・祝) 14:00～

会場：佐賀県立博物館

内容：戦時中の少年少女雑誌の工作体験・紙芝居実演 ほか(予定)